

## 第260回 昭和の森自然観察会

### トンボとセミ

小林義和（千葉市）

日 時：2013年8月11日（日）13:00～15:00

参加者：大人4名 子ども3名 指導員11名 計18名

担当指導員：綾富美子 小林義和 花島伸美

今年の夏は連日にわたり猛暑が続いて水不足と日照りに見舞われている。今日の観察会も日中の一番厚暑い午後からのために来客数が心配である。観察会のテーマとしてセミが登場するのは初めてかもと思いつつできるだけ日陰を歩くようにとコースを考えてスタートした。

東屋を出て子供広場に向かう雑木林に入ると沢山のセミの抜け殻を発見した、足元の土にはいくつかのセミの抜け穴が確認された。クヌギの木の下枝にはアブラゼミが、イヌシデの木の根元の方にはニイニイゼミの抜け殻があちらこちらで発見された。種類によって脱皮する位置に違いのあることが分かった。アブラゼミは下枝の葉裏に集中している、鳥からの防御の為かなんと不思議な習性を持っていることか、世代間の接触がないのに本能的に同じ行動をとることは全く驚きである。アスレチック広場を過ぎてアオハダの木の方に入るとツクツクボウシ、ヒグラシの抜け殻及びセミに出会うことができた。ヒグラシに何か白い大きなものが取りついている。セミヤドリガの幼虫のこと。このような大きな害虫が取りついているセミがはたしてこの先無事に子孫を残せるのかと心配ではあるがこれが自然界のおきてなのか、不思議な光景であった。今日出合ったのは アブラゼミ、ニイニイゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシ、の姿を確認。また、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシの抜け殻を観察することができた。



もみじ広場を通って中菖蒲田に向かいトンボの観察へと移った。中菖蒲田はビオトープの会による水路の手入れが行われてあったが、日照り続きの為に水路の水が極端に少なくて案内目的のオニヤンマの羽化がらがかろうじて1頭を発見して観察することができた。近くにはオニヤンマのパトロールが行われていて運よく捕獲でき皆さんで触って観察することができた。今回観察できたトンボは オニヤンマ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ノシメトンボ、コノシメトンボ、ナツアカネ、マユタテアカネ、アオモンイトトンボ、チョウトンボと10種類のトンボに会うことができた。

参加者の感想 オニヤンマは図鑑でしか見たことがなかったが実物に会えてよかったです。トンボの種類を覚えた。セミの居場所が分かった。セミの生活が良く分かった。夏休みらしい体験をした。夏休みの研究にしたい。などの感想が寄せられた。少人数の為か全体にきめの細かい観察会になって参加者には十分に満足をして頂きました。本日の最高気温がなんと35度、連日の暑さの為か参加者は7名であった、参加者の少ない分各人にきめ細かな観察会を行なうことができた。